

1991年（平成3年）の湾岸戦争以降、イラクでは白血病の子どもたちが急増しています。その原因として、戦車を攻撃するために使用した「劣化ウラン弾」の影響が疑われていますが、放射能を帯びた弾丸や戦車の残骸は放置され、そこで生活する人々を知らぬ間に被ばくさせました。

日本では医療技術の進歩により、小児白血病の8割以上が治るようになりましたが、イラクでは経済制裁などの影響もあり、多くの子どもたちが適切な治療を受けられないまま命を落としています。

今年の平和企画展は、白血病やがんと闘うイラクの子どもたちに焦点をあて、「戦争が終わっても、白血病と闘う子どもたちの戦争は終わらない」という辛い現実を見つめながら、平和の尊さについて考えました。

6月22日（水）から26日（日）までの5日間、カルスタすぎとにおいて白血病と闘うイラクの子どもたちをテーマとした「杉戸町平和企画展」を開催しました。また、最終日の26日（日）には、日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）事務局長の佐藤真紀さんを講師に招いて講演会を行いました。

- 【絵画展】
1. 期間 6月22日（水）～26日（日）  
9時～21時 ※最終日は17時まで
  2. 場所 杉戸町生涯学習センター カルスタすぎと  
オープンギャラリー

- 【講演会】
1. 日時 6月26日（日）  
14時～15時30分（開場／13時30分）
  2. 場所 杉戸町生涯学習センター カルスタすぎと  
多目的ホール

主催／杉戸町

共催／杉戸町国際交流協会

後援／杉戸町教育委員会、杉戸町医師会、杉戸町社会福祉協議会、

学校法人昌平学園 昌平中学・高等学校、学校法人藤田学園 杉戸白百合幼稚園

協力／日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）



1991年(平成3年)の湾岸戦争以降、イラクでは白血病の子どもたちが急増しています。その原因として、戦車を攻撃するために使用した「劣化ウラン弾」の影響が疑われていますが、放射能を帯びた弾丸や戦車の残骸は放置され、そこで生活する人々を知らぬ間に被爆させました。

日本では医療技術の進歩により、小児白血病の8割以上が治るようになりましたが、イラクでは経済制裁などの影響もあり、多くの子どもたちが適切な治療を受けられないまま命を落としています。

今年の平和企画展は、白血病と戦うイラクの子どもたちに焦点をあて、「戦争が終わっても、白血病と戦う子どもたちの戦争は終わらない」という辛い現実を見つめながら、平和の尊さについて考えます。

# 戦争の傷跡

## 白血病と戦う イラクの子どもたち



### オープン展示

期間 **6月22日(水)～26日(日)**

9時～21時

※最終日は17時まで

場所 カルスタすぎと オープンギャラリー

内容 闘病するイラクの子どもたちが描いた  
絵画、写真、その他模型などの展示

### 講演会

日時 **6月26日(日)**

14時～15時30分(開場/13時30分)

場所 カルスタすぎと 多目的ホール

内容 講演「戦争の傷跡～白血病と戦うイラクの子どもたち～」

講師：日本イラク医療支援ネットワーク

事務局長 佐藤真紀氏

定員 250名(事前申込不要)

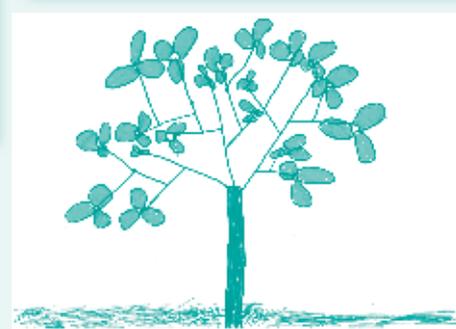
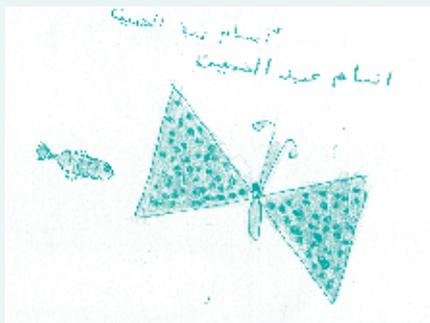
入場無料

主催：杉戸町 共催：杉戸町国際交流協会

後援：杉戸町教育委員会、杉戸町医師会、杉戸町社会福祉協議会、

学校法人昌平学園 昌平中学・高等学校、学校法人藤田学園 杉戸白百合幼稚園

協力：日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)



## 講師プロフィール

日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)  
事務局長・副代表

## 佐藤 真紀 (さとう まき)

奈良県生まれ、早稲田大学理工学部卒業。株式会社ブリヂストンで研究員として勤務。青年海外協力隊でイエメンに赴任するも内戦勃発。その後シリア、パレスチナで活動。国連ボランティアなどを経て、日本国際ボランティアセンター (JVC) パレスチナ事務所代表。2002年からイラクに関わり、イラク戦争では緊急救援を指揮。

2004年に日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) を立ち上げ現職に。2005年から5年間、国際協力NGOセンター (JANIC) で危機管理安全管理研修の助言委員として、NGOのための危機管理研修をコーディネートした。

中東を拠点に活動。長きにわたる中東での活動には定評があるが、学会発表から子ども向け絵本や、ワークショップと幅広い活動を行っている。

### 主な著書

「戦火の爪あとに生きる」 童話館出版  
「ハウラの赤い花」 新日本出版



## 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

今回の「杉戸町平和企画展」開催にあたり、白血病や小児がんと闘うイラクの子どもたちが描いた絵画の提供や、講演会での講師派遣など、多方面にわたって特定非営利活動法人日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) にご協力をいただいています。

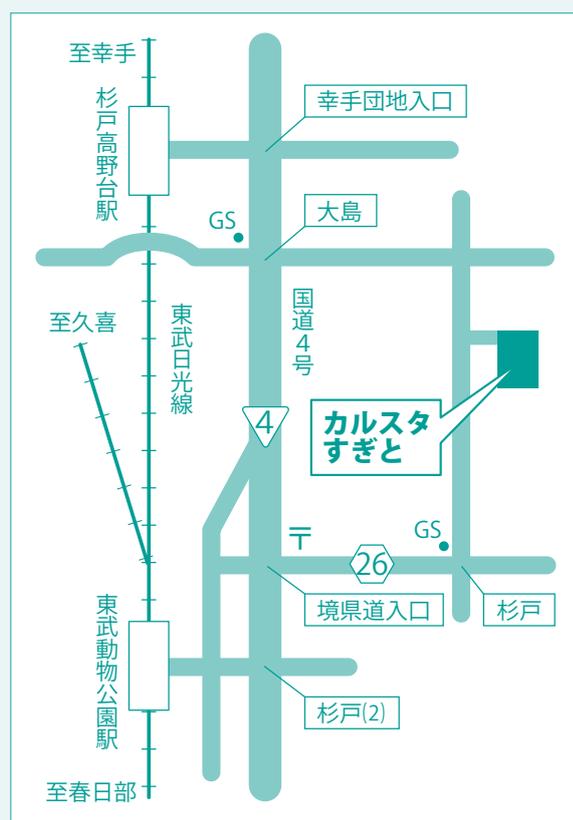
JIM-NETは、湾岸戦争やイラク戦争で使用された劣化ウラン弾が原因とされる、白血病や小児がんで苦しむイラクの子どもたちを支援するため、2004年にNGOや企業、市民グループが集まって結成されました。近年では、福島の子どもたちを放射能から守る取り組みや、イラク・ヨルダン地域の難民支援などにも力を入れています。

### 会場アクセス

杉戸町生涯学習センター-カルスタすぎと ☎ 0480 (31) 2111

〒345-0042 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字大島 477 番地 8

県道 26 号境杉戸線「杉戸」交差点を北西方向に曲がり、800mほど直進して右折してください。案内看板があります。【駐車場 100 台完備】



平成 28 年度 杉戸町平和企画展  
「戦争の傷跡 ～白血病と戦うイラクの子どもたち～」

## 来場者アンケート集計結果

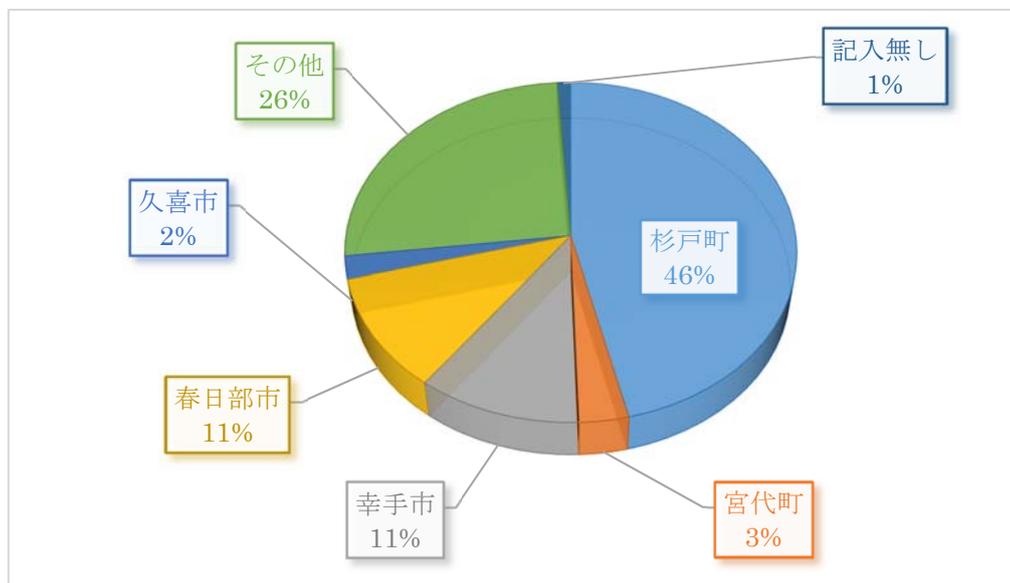
開催期間：平成 28 年 6 月 22 日（水）～ 26 日（日） 9 時～21 時

開催場所：杉戸町生涯学習センター カルスタすぎと

・ アンケート回収数

| 回収日      | 回収数 |
|----------|-----|
| 6月22日（水） | 7   |
| 23日（木）   | 10  |
| 24日（金）   | 8   |
| 25日（土）   | 12  |
| 26日（日）   | 56  |
| 合計       | 93  |

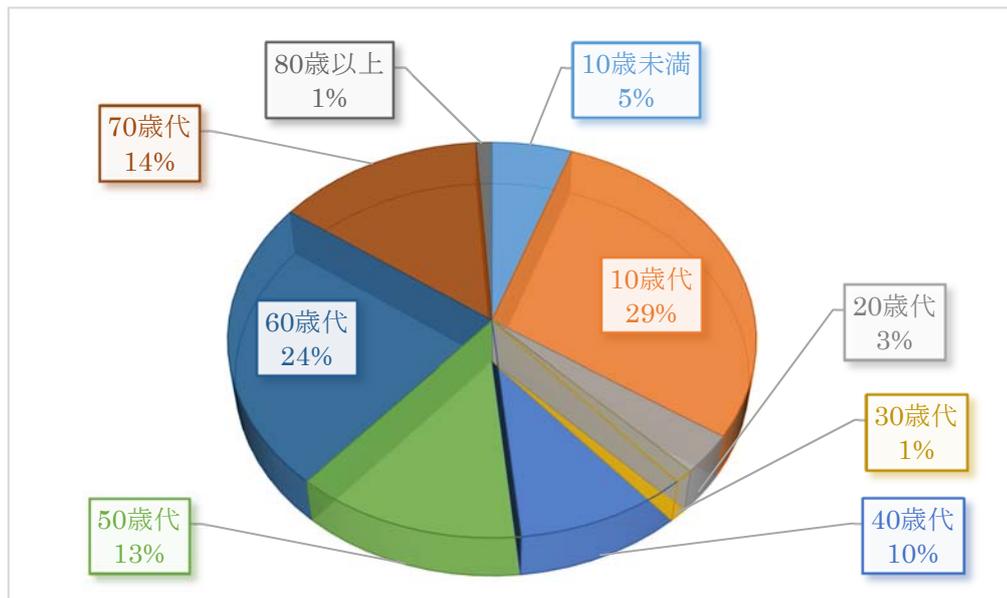
1. お住まいの市区町村はどちらですか？



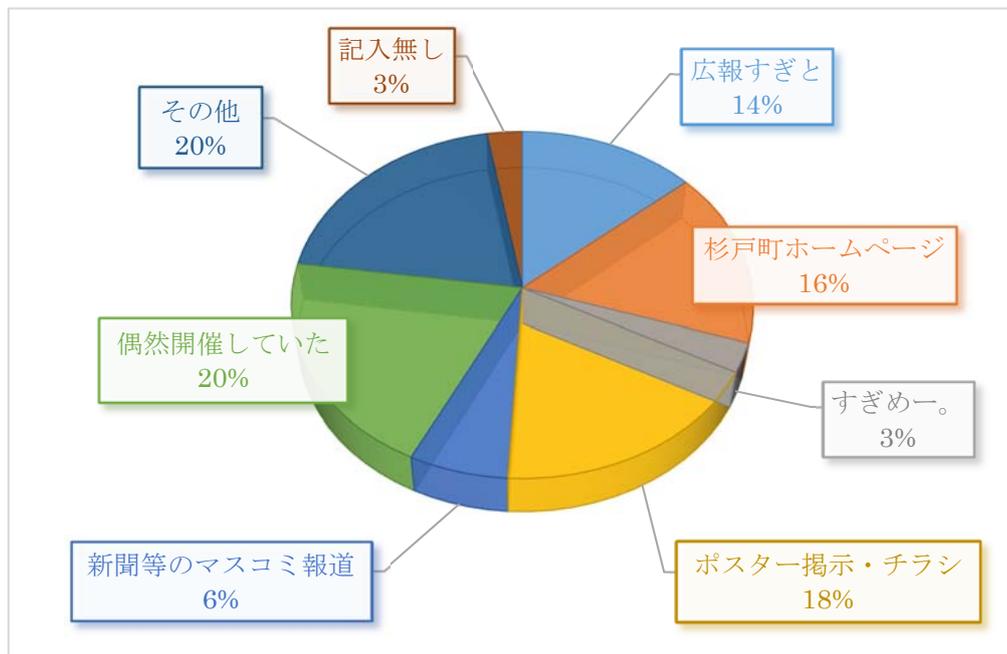
「その他（26%）」の内容：

さいたま市、越谷市、草加市、神奈川県横浜市、川崎市、相模原市、秦野市、東京都町田市

## 2. あなたの年齢（年代）は？



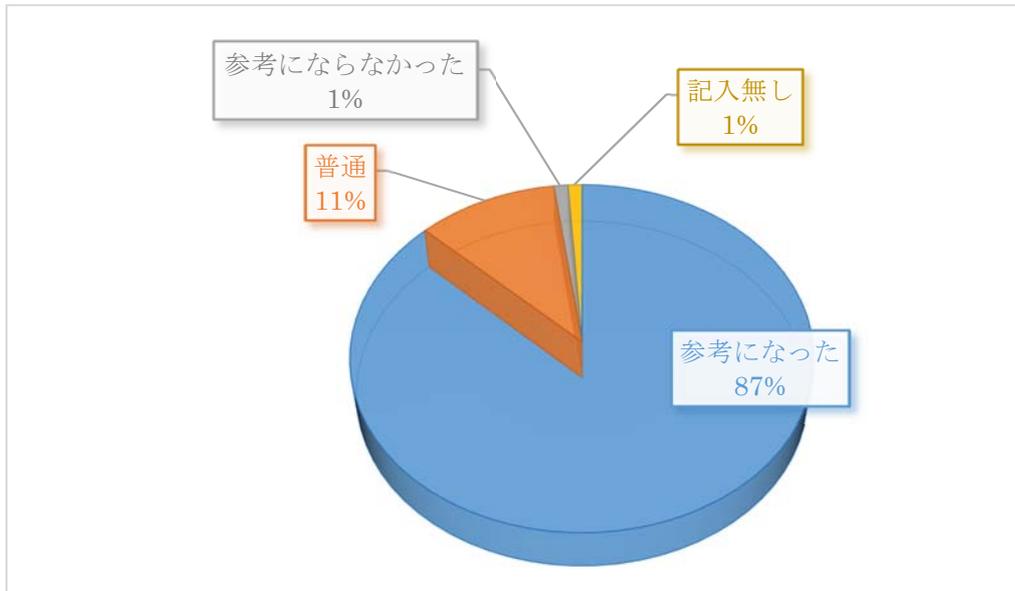
## 3. 平和企画展の開催を知ったきっかけは？【複数回答可】



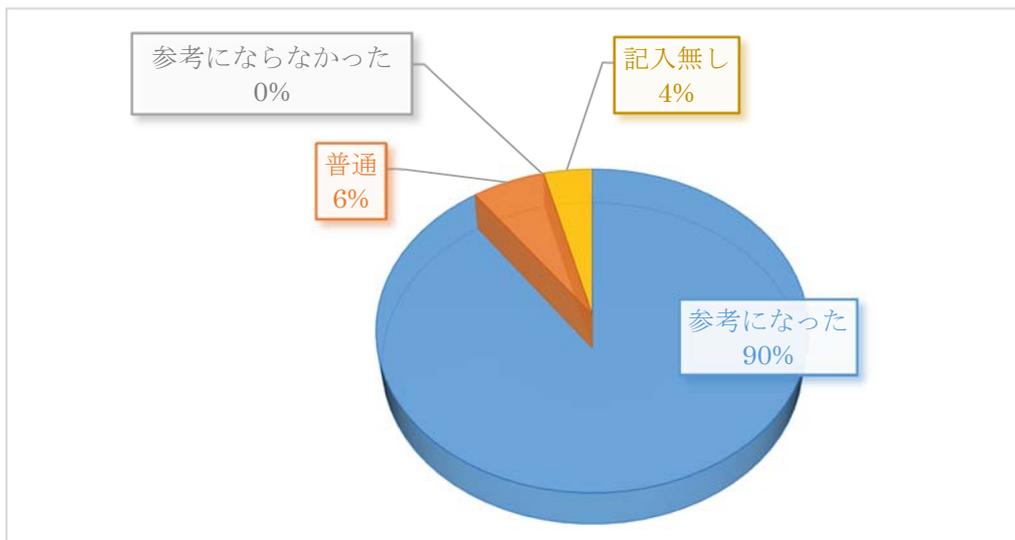
「その他（20%）」の内容：

学校等に配布したチラシで知った、家族・知人等から聞いた

#### 4. 企画・展示の内容はいかがでしたか？



#### 5. 講演会はいかがでしたか？



## 6. その他、今回の平和企画展に対する感想・意見等（要約）

- ・ 「劣化ウラン弾」という恐ろしい爆弾のことを、初めて知りました。（60 歳代）
- ・ 白血病で苦しむイラクの子どもたちと戦争との関係性が、よく分かりました。（60 歳代）
- ・ 地球はひとつなのに、心はひとつにはなれない。難しい課題ですが、自分にできることから、まず動かなくては！（60 歳代）
- ・ このような企画展の開催は、素晴らしいことだと思います。（60 歳代）
- ・ 戦争の恐ろしさ、悲惨さがよく伝わってきました。（50 歳代）
- ・ 戦争を知らない私にとって、その悲惨さはイメージしにくいものでしたが、こうしてイラクの子どもたちの写真や絵画、闘病生活の様子などの展示を見て胸が痛みました。戦争が終わっても、その影響は計り知れないのですね。展示を見ている間、涙が止まりませんでした。（40 歳代）
- ・ イラクの子どもたちの絵画は、色鮮やかなものが多くて、どれも素敵でした。未来をみつめて、希望を抱いている感じがしました。（40 歳代）
- ・ 平和な日本。日本の子どもたちは何て幸せなのだろう。でも、平和な日本では、「平和」がどれだけ素晴らしいことなのかさえ分からない。気づかない。子を持つ親として、イラクの子どもたちの展示を見て涙があふれ出しました。（40 歳代）
- ・ いくら戦争とはいえ、ルールはあるはず。「劣化ウラン弾」は、あまりにも非人道的で許しがたい。（60 歳代）
- ・ ニュース報道だけでは、紛争地で起きている惨状が理解しづらい。具体的にどのような事態が起きているのか、過去のことだけでなく今現在も苦しみが続いているという事実を忘れないためにも、このような企画展は大切だと思いました。（50 歳代）
- ・ 中東エリアでの紛争やテロのニュースはよく目にしますが、このような子どもたちがいることを知る機会は本当に少ないので、たいへん勉強になりました。大金を寄付することはできませんが、イラクの子どもたちのことをいつも心にとめて、何か自分にできることをやりたいと思いました。（50 歳代）
- ・ イラクの子どもたちが白血病で苦しんでいることを、もっと早く知りたかった。昨年、ハウラちゃん来日したのですね。自分のことしか考えずに生きている自分を恥じ、何か考えなければと思いました。（50 歳代）

- ・ イラクでは、白血病やがんと闘っている人が多いことを知りませんでした。戦争をしてはならないと、改めて強く思いました。(20 歳代)

### 【講演会をお聴きいただいた方々の声】

- ・ 講演を聴いていて、とても辛かったです。この気持ちを忘れずに、私もできることを行っていきたいと思います。(40 歳代)
- ・ 今回、貴重な講演をありがとうございました。この事実を受け止めて、これからは私たちが伝えていかなければと思いました。(10 歳代)
- ・ 私にできることは何なのかを、さらに探して実行していきたいと思いました。(10 歳代)
- ・ イラクの子どもたちが一日も早く、私たちのように平和な暮らしができるよう、小さなことからでも何か始めたいと思います。(10 歳代)
- ・ このように過酷な環境であっても、イラクの子どもたちの絵は意外にも明るかった。それだけが、何よりの救いとなりました。世界から戦争や紛争が無くなりますように。(70 歳代)
- ・ 日本の子どもたちと友達になりたいと言っていた、ラナちゃんの言葉が忘れられません。世界中の人が友達なら、戦争なんて起きないのに。(10 歳代)
- ・ 次の時代を担う若い人たちに、「平和」に関心を持ってほしい。「平和」とは何か、自分の意見を持って欲しいと思います。(70 歳代)
- ・ より多くの人にこの事実を知ってもらうためには、私たちと同年代の人が伝えなければと強く思いました。(10 歳代)
- ・ 国際援助団体は、国内の同様の問題に対して何もしていないかと思うことがあります。JIM-NET はチョコ募金を通して、福島の子どもたちへの支援をしたり、パッケージの製造過程においては障がい者や高齢者の雇用を生み出したりと、支援のやり方にとっても感心しました。国内・国外と区別せず、同様の問題に対して同時にアプローチできる良い例だと思いました。(30 歳代)
- ・ 絵の色や表情から、イラクの子どもたちは、どのような気持ちでその絵を描いているかと思うと胸が痛くなりました。(10 歳代)
- ・ 「学校に行きたい！」というイラクの子どもたちの言葉が印象的でした。学校教育の重要性を再認識するとともに、日本は「平和」についてもっとしっかり教育するべきだと思いました。(60 歳代)